

●●●
Aikoh

福祉社会への道を照らす 愛の灯台
～一隅を照らす実践、地域への貢献～ **No.86**



特集① 愛光×ラファエルの家
～日本訪問の7日間～

特集② Boulangerie Kazu
地域に届く幸せ～愛光の作品を地域のお店で販売～
心とおなかを満たす場所
～佐倉市「おふくろ食堂」のやさしい時間～

FUKUSHI JOBS 現地レポート

あったかパントリー 食材などのご寄付について(お願い)

令和6年度事業報告・決算報告

灯台会員募集 / 感謝のコーナー / 日誌抄録 / 編集後記

愛光創立70周年 秋まつり

愛光 ラファエルの家

～ 日本訪問の7日間の 2025.7.7～14 ～
어서 오세요, 라파엘의 집

1日目: 歓迎セレモニー、懇親会



2日目: 障害者支援事業部、佐倉圏域事業部見学



3日目: 高齢者福祉事業部、地域福祉事業部見学



4日目: 座学研修、現場体験実習(障害者施設の日中活動)



5日目: サロン・ド・ともいき参加、職員懇親会



6日目: 買い物観光(ジョイフル本田、ドン・キホーテ他)



7日目: 成田山散策、買い物(ワークマン、イオン他)



8日目: 帰国

○韓国ラファエルの家との姉妹施設提携のあゆみ

愛光と韓国「ラファエルの家」は盲重複障害福祉分野での互いの支援向上を目的に2002年より姉妹提携を続けています。二か国を行き来しながら職員同士の交流研修をはじめ、利用者さん同士の文化交流、ご家族同士の交流など、互いの信頼を築きながら更なる盲重複障害福祉の増進のため、努力を重ねています。



○ラファエルの家 事務局長 崔碩(チェソク)さんにお話を伺いました。

- Q1. 「ラファエルの家」と「愛光」のこの国際交流についてどのように感じておられますか？
-単純な交流を越えて相互理解と学びの機会になることができると思います。
- Q2. 国際交流することによるメリットや「ラファエルの家」での影響などあれば教えてください。
-日本の社会福祉制度と施設運営について知り、サービスサポートについての細かい部分を見習おうと思います。
- Q3. 「愛光」との交流の中で、何か印象に残っているエピソード等ございますか？
-韓国について関心のある愛光職員が多くてお互いの国について多くの対話ができました。
- Q4. この国際交流は今後どのようにしていきたいなどあれば教えてください。
-施設運営や利用者である障害者のケアなど実務を経験する機会になることを希望します。
- Q5. 今「ラファエルの家」の事業について、また力を入れていることについて教えてください。
-利用障害者の自立を目標に、個別支援サービスを通じて地域社会の活動および参加に重点を置いています。

2002年より、盲重複障害福祉の分野において相互の支援向上を目指し、姉妹提携を続けてきた韓国「ラファエルの家」との関係性を、今回の交流を通じてさらに深めることができました。今回来日されたのは、イ・チュングン院長、チェ・ソク事務局長をはじめとする研修職員6名の、計8名の皆さまです。短い滞在期間ではありましたが、非常に充実した交流の機会となりました。

研修では、日韓それぞれの福祉制度や支援体制について座学を通じて学び、相互理解を深めることができました。参加者の皆さまは、両国の制度的な特徴にも大きな関心を寄せてくださいました。

また、施設の日中活動にも実際に参加していただき、現場の雰囲気や支援の実感を体験していただく機会となりました。その後、愛光職員とラファエルの家の職員による座談会も開催され、活発な意見交換が行われました。互いの取り組みや課題について率直に語り合い、有意義な学びの時間となりました。

観光では成田山を巡り親睦を深め、笑顔と共感にあふれた時間を共有することができました。文化交流を通じて相互理解が促進され、貴重な機会となりました。

なお、来年8月から9月にかけては、私たち愛光から韓国「ラファエルの家」を訪問する予定です。今回の交流を糧とし、今後さらに実りある国際連携を築いていけることを心より楽しみにしております。
(本部長 佐藤 達弘)



地域に届く幸せ ～愛光の作品を地域のお店で販売～

愛光の利用者が手掛けた作品はただの商品ではなく、実はその裏に、たくさんの思いと情熱が詰まっています。そんな「唯一無二の作品をたくさんの人に届けたい！」を実現させてくれたのが、地域の身近なお店でした。今後数回にわたり、愛光の作品を置かせていただいているお店をご紹介します。今回はその第1弾として、佐倉市にある「ブーランジェリーカズ」というパン屋さん。手芸作品と創作作品を販売する場を提供していただいています。

白い扉を開けた先に広がる幸せ空間

白を基調とした外観に、やわらかな光が差し込む大きな窓。扉をあければ、香ばしいパンの香りと、心のこもった手作りの作品が出迎えてくれます。このオシャレな空間は、オーナーの高島さんご夫妻が自ら手を加えてリフォームした、こだわりの詰まったお店です。名前は「ブーランジェリーカズ」、「ブーランジェリー」とは、フランス語でパン屋さんという意味があるそうです。奥さまは画家として作品を手がけ、旦那さまはパン職人として日々焼き立てのパンを届けています。ふたりの“すき”を掛け合わせて生まれたこの店は、手作りのあたたかさ、日々の美味しさがひとつになった、まさに特別な空間…訪れる人の心とお腹をそっと満たしてくれます。

地域とつながる、笑顔の循環



ブーランジェリーカズは、愛光の作品だけでなく、他の作家の方たちの販売の場も提供しています。お店にとっても新たな魅力づけとなり、「お店も作家さんも、お客さんにとってもプラスとなるように。」と作り手の活動を支えてくれています。さらにオーナーは、精神的にハンディを抱える方々の雇用に力を注いでいた経験もあり、福祉的な視点を大切にしている方です。「みんな違ってそれでいい。」と笑顔で話すオーナーは、人の可能性を信じ、地域の中でその力を活かす場を作ってきました。また地元農家の野菜も置いている店内は、福祉・農家・商業・地域がつながり、みんなが笑顔になる交流の場になっています。そんな笑顔の循環が、いま地域にゆっくりと広がっています。愛光の作品は、オーナーとも相談して、ひとつひとつの個性や質感を、じかに感じていただけるよう、あえて透明な包装はせず、そのまま姿でお店に置いています。手にとって見ていただく事で、素材のぬくもりや色合いの美しさ、細かな手仕事の魅力が伝わればと思っています。飾らなくても、ありのままに十分にきれいな思いも込めています。ブーランジェリーカズにお越しの際はぜひ、作品を手にとってご覧になってください。

手から手へ、心から心へ

愛光の利用者の方々にとって、ご自身の作品が売れることは何よりの励みになっています。作品づくりから生まれる楽しさややりがいはもちろんのこと、「見てくれる人がいる」「誰かの手に渡る」という経験は、地域の一員としてのつながりを感じる大切な機会となっています。このような素敵なパン屋さんで作品を展示・販売させていただけることは、私たちにとても大きな喜びです。



ブーランジェリーカズ TEL/ 043-486-7094

場所/ 千葉県佐倉市江原台1-2-7-7 京成白井駅 バス5分 聖隷佐倉市民病院入口すぐ 駐車場 4台

営業時間/ インスタでご覧ください

定休日/ 月曜～木曜



▲お店のインスタはこちらから



心とおなかを満たす場所
～佐倉市「おふくろ食堂」のやさしい時間～



佐倉市神門で約8年間営業し地域の人々に愛された「おふくろ食堂-神門屋-」が移転して、「おふくろ食堂」として令和7年3月31日にオープンしました。食事を通じて人と人が繋がるこの場所の魅力を、現場の声から感じてみたい。そんな思いで今回取材を行いました。新しく移転した場所は、佐倉南図書館から寺崎方面に向かう途中にあり、大きな看板が目印となっています。現地に到着すると、赤い屋根と薄いオレンジの壁でできた柔らかい雰囲気のお店が見えてきます。



どこか懐かしく、温かみのあるこの食堂では、店主の「おふくろ食堂の名前の通り、お母さんが作ってくれようご飯のような美味しい物を作りたい」という優しい想いをそのままに、まるで“実家の食卓”のような安心感が迎えてくれます。8名いるスタッフはほとんどが子育て中のお母さんです。「皆様の心と胃袋を満たせる場所を提供していきたい」というお店のモットーがあり、お米やお野菜は千葉県産のものを使用しながら、毎日手作りの料理を提供しています。おふくろ食堂で一番人気のメニューは「チキン南蛮」です。筆者もいただきましたが、ボリューム満点で大変美味しかったです。その他に店主が一押しメニューとして、卵を佐倉のヤマニ味噌でつけた「たまごごはん」を紹介してくれました。また日替わり定食として出している「まぐろ丼」は、最近天然の生マグロの仕入れができるようになり、新鮮で美味しいと好評だそうです。



神門でお店をしていた時に託児所があったように、今も小さいお子さんが多く来てもらえるように心がけているそうです。キッズメニューはもちろん、店内にはキッズコーナーや駄菓子コーナーがあり、お子さんが楽しく食事ができる場が用意されています。またご飯を食べ終わったら遊んでもらえるように、神門にあった遊具を持ってきているそうです。



食堂には、小さな子供連れの親子、高齢の方、お昼休みに立ち寄る会社員など、様々な世代の方が訪れます。ただ食事をするだけでなく「最近どう?」「元気にしてる?」といった自然な会話が交わされ、地域に暮らす人達の“見守りの場”としての役割も果たしています。おふくろ食堂は、私達の街にとっての“もう一つの家”です。地域のつながりが希薄になりがちな今こそ、こうした場所の大切さがますます注目されています。

おふくろ食堂 住所 佐倉市太田1925-7
営業時間 月～金 11:00～15:00
電話 043-312-6224
駐車場 有

ふくしのしごと～in佐倉～

FUKUSHI JOBS現地レポート

6月、佐倉市ユーカリが丘にあるイオンタウンユーカリが丘にて福祉の仕事を市民の方々に身近に感じてもらうためのイベント「FUKUSHI JOBS(フクシジョブズ)」が開催されました。

このイベントは佐倉市社会福祉施設協議会にて企画されており、以前は就職説明会という形式で開催されていました。

今回は市内15か所の福祉事業所が集まり、福祉に関わる様々な体験ができるコーナーや販売会を組み合わせた新しい形の試みとなりました。



▲開催場所となったイオンタウン

当日は気候も良く、沢山の市民の来場が期待されました。その様子を現地よりお届けします。



西街区1階では「福祉を知ろう」と題し、視覚障害者体験・点字体験・ステんシル体験・高齢者疑似体験・高齢者レクリエーション・AIによる体力測定が行われ、体験をした方々からは「お年寄りって歩くのが大変だね。」「点字って難しい。」など、体験したからこそその感想が聞かれました。

他にも、福祉事業所の製品販売コーナーが設けられ、施設利用者の方々が作った品物が所せましと並びました。さをり織りで作ったポーチを手に取り「友達にプレゼントにするのよ。」と購入してくれる方や「この桜の箸置き素敵。」などと購入してくれる方々がいらっしゃいました。クッキーなどのお菓子類も、とても人気でたくさんの方の手に、手作りのおいしさが届いたのではないのでしょうか。

東街区1階では「パラスポーツ体験」が行われました。11:30からボッチャ体験、13:30からフライングディスク体験、15:30からは車いす、電動車いすの体験が行われ多くの方が参加されました。

今回、イベント「フクシジョブズ」にてたくさんの手と手につながる機会が生まれました。このようなきっかけから、福祉と地域の方々との関係がより深まり、暮らしに寄り添う身近な存在としていつも福祉がそばにある。そんな関係が作っていけると良いですね。



▲点字体験コーナーでは愛光の利用者さんも活躍！



▲視覚障害体験に参加したお子さんたち触覚を頼りにお金を判別できるかな？



▲ボッチャ体験コーナーでの競技説明場面多くの方が参加されていました。



佐倉市内の子ども食堂、地域食堂が集まって運営している「さくらあつたか食堂ネットワーク」では市民のみなさまのあたたかいご支援をいただきながら運営を続けています。食材や調味料、その他物資のご提供も大変ありがたく活用させていただいており、その受付、保管、配布を「ワークショップかぶらぎ」が担っております。お寄せいただける物資がありましたら下記をご参照の上ご連絡いただければ幸いです。

果物野菜

お庭になった柿をいただきました

調味料等

フリーズドライ食品、乾物、お菓子類

そのほか

冷蔵、冷凍品も受取可能です

下記に該当する場合お受けできない場合がございます
・賞味期限が切れているもの
・破損などにより衛生状態が保持されていないもの

お持ち込み先

社会福祉法人 愛光
ワークショップかぶらぎ (あつたかパントリー)
〒285-0025
千葉県佐倉市鐺木町 352-2

TEL 043-486-6335 FAX 043-497-4924
✉ kaburagi-wc@rc-aikoh.or.jp
🌐 <https://www.rc-aikoh.or.jp/>
● 受付日時 平日・祭日9:00～17:00 (土日を除く)

●アクセス

Illustration by Junko Kuroda
Designed by atelier Tierra Azul

↑こちらのQRコードからfacebook ページにどうぞ。各団体のブログ等へのリンクがあります。↑

令和6年度事業報告

【法人本部】
令和6年度は、介護保険法改正、介護報酬の改正および障害者総合支援法改正が行われた。法人の福祉サービスの質の向上に繋げるため、必要な対応が実施できるよう確認と整備を行った一年であった。

○地域との連携・協働

・近隣小中学校の福祉学習に職員派遣を行ったほか、花見川区障害者福祉委員会の研修講師、千葉県及び市川市の人権擁護協議会の研修として施設見学を受け入れた。ともいきプロジェクトにてバザーを実施し、地域との連携・協働につながる活動を行った。

○採算性の検証

・公用車任意保険の保険会社変更(前年比△1,204,050円)

○人材確保・人材育成

・学校訪問を行ったほか、事業所紹介等の講義も実施した。講義を受講した学生より、法人での実習希望があり、実習生の獲得及びブランディング強化につながった。
・実習生は学校との密な関係構築や実習校の増加などに伴い、過去最多となる119名の受入れとなり、新卒採用にもつながった。

○業務効率化推進・ICT活用による業務省力化促進

・本部にて導入していたグループウェアソフトを各事業所へ導入し、スケジュール管理・ワークフロー化(稟議書・発注書等の承認・決済の電子化)を実施し、ペーパーレス化・業務省力化を促進した。

【ルミエール】

「みんな笑顔で想いを形に」をスローガンに掲げたが、度重なる感染症罹患者対応があり「みんな笑顔で」という部分の体現は困難であった。一方で「想いを形にする」という点においては、利用者のアセスメントを着実に進めた結果、これまで以上に利用者一人ひとりを深く知ることができた。日中活動の充実を目的にグループ活動から個別活動へと移行し、各ホームで自立支援を目的とした個別作業の習慣化が進んだ。作業が難しい利用者には個別に散歩の機会を設けて対応した。

○数値目標

・施設入所(稼働率):目標98% ⇒ 実績98.0%

・生活介護(稼働率):目標97% ⇒ 実績94.9%

・短期入所(稼働率):目標70% ⇒ 実績75.7%

【リホープ】

「生き方の意思決定をしっかりと支えよう」をスローガンとした。利用者の重度化により、介護技術の向上が必要となってきている。職員会議等で介護技術の実践研修を多く取り入れたほか、成年後見人の選任に力を注いだ。また、ターミナルケアについて職員会議等で話し合いを重ね、看護師・医師の協力の下、職員の不安を解消し実施に至った。

○数値目標

・施設入所(稼働率):目標98%⇒実績96.8%

・短期入所(稼働率):目標95%⇒実績111.7%

・生活介護(稼働率):目標101%⇒実績100.6%

・入所満床確保 :目標50床⇒実績47床

【めいわ】

「ライフ・ワーク・バランス～安心で楽しい生活と魅力ある活動を～」をスローガンとし進めてきた。平均年齢も59歳となり今後ますます高齢化が進むことになる。中期経営計画内の「健康な体と生き甲斐につながる支援」において水虫の治療に注力した。内服・塗布薬・検査を繰り返し完治までに時間もかかるが根気よく取り組んだ。活動については年間を通し安定的に活動を提供することができ、新たな委託販売先の開拓、近隣図書館での定期的な販売会なども開始した。

○数値目標

・施設入所(稼働率):目標98% ⇒実績99.2%

・生活介護(稼働率):目標103% ⇒実績101.7%

・短期入所(稼働率):目標 75% ⇒実績88.2%

【根郷通所センター】

「安心と信頼の支援で利用者の地域生活を支える」をスローガンとした。通所している際に垣間見える”ご家庭の問題や将来への不安”など、ご家族の相談や思いを積極的に受け止めてきた。家庭の状況を含めご家族からの話を聞くことにより現場の職員の意識が変わってきた。利用者の支援は本人のみならず、その背景を知ること支援の深みが増す実感が得られたことだろう。また利用者の行動に困っているご家族との連携、支援体制の構築に努めた。昨年度参加した強度行動障害研修で学んだ知識をフルに活用した、専門性を持った支援にご家族からも満足の声

が挙がっている。
酒々井サービスエリアでの自主生産品の販売を開始してから3年が経過した。売れ行きも上々で販売ブースもメインの場所へ移動していただけるまでに成長した。

○数値目標

・稼働率:目標105%⇒実績103%

【山王の家】

「地域の中で自分らしい生活を」をスローガンとして支援に取り組んだ。ご家族が年を重ね、通院付添いや帰省が難しくなっている。通院を職員が行うケース、看護師・嘱託医への相談が必要な場面も増えた。その他、地域の祭りへの参加、地域連携推進会議を入所施設と一緒にを行った。

○数値目標

・稼働率:目標95% ⇒ 実績92.1%

【よもぎの園】

当年度のスローガンは「 Co-challenge ～一致団結し新たなよもぎへ～」であった。積極的な実習受け入れを継続し、特別支援学校卒業後の進路に選んでいただけよう努めた。感染症等の影響により稼働率の目標値は達成することができなかった。一方作業売り上げが1,000万円を超え、平均工賃月額も2万円を超える結果となった。環境の整備として「玄関前等インターロッキング部分のアスファルト化」「空調故障箇所の修繕(1・2F廊下等)」「外灯のLED化」「ガスコンロ交換」「排煙窓ダンパー交換」「屋根瓦、雨どい補修」を実施した。

○数値目標

・稼働率:目標93%⇒実績87%

・工賃額:目標1万5千円～2万円未満維持⇒実績21,000円

【かけはし】

「地域に根付く～始まり・種まき～」をスローガンとした。当年度はアシストも佐倉圏域事業部となり、相談支援事業は一体となって運営する体制になった。毎月2回のアシスト・かけはし会議開催や毎朝ZOOMを活用したケースの共有を図り、円滑な連携体制を構築した。

○数値目標

・特定相談支援(者):目標55件/年⇒実績81件

・障害児相談支援 :目標20件/年⇒実績44件

・障害支援区分認定調査件数:目標36件/年⇒実績31件

・提供時モニタリング加算件数:目標 60件/年⇒実績72件

・集中支援加算の給付件数: 目標10件/年⇒実績17件

【ワークショップかぶらぎ】

当年度のスローガンは「人と繋がる場所～あるべき姿 なりたい姿を取り戻す」であった。4月よりB型の定員を24人に増やした。精神障害関連だけでなく、軽度知的障害に関する研修に職員を派遣した。新規プログラムとして「パソコン・スマホ講座」を実施したほか、カフェスペースの有償貸出しを行った。

○数値目標

フレックスワークコース(就労継続支援B型)

稼働率:目標平均稼働80.0%⇒実績72.1%

ライフステップコース(自立訓練(生活訓練))

稼働率:平均稼働110.0%⇒実績87.5%

【ジョーの家】

当年度のスローガンは「地域で生きること～生活力を高める～」であった。世話人会議内でミニ研修を実施したほか、個別ケースにおける特性の理解を深めた。避難訓練について、通所(通勤)途中で災害があった際の対応として行った。佐倉市グループホーム等連絡会及び印旛圏域グループホーム等連絡協議会へ参加し、今後義務化される地域連携推進会議の取り組みについて情報交換した。

○数値目標

稼働率:目標99.5%⇒実績98.5%

【はちす苑】

○特別養護老ホーム

短期入所生活介護(介護予防) 共生型短期入所

特養は54床から64床へ、ショートステイは、20床から10床へと定員変更を行った。年間入院日数が355日となっており、前年度より増加している。新型コロナウイルスや疥癬の感染の影響で、ショートステイの稼働は目標を達成できなかったが、年間を通じて措置入所の方がおり、特養の稼働率に影響があった。

特養にてはちす苑改革WTを立ち上げた。「はちす苑8つの誓い」が実行されているか確認を行った。

○通所介護・通所介護相当サービス・共生型生活介護

クラブ活動(個別支援)は2年目を迎え、日誌や利用者からのヒヤリングを基に、より個別支援につなげられるように、内容を精査して実施した。

人材育成については、介護福祉士国家試験を3名が受験して全員が合格した。

○訪問介護・訪問介護相当サービス

南部圏域の需要に応える体制整備に重きを置き、担当エリアの絞り込みに注力した結果、移動時間が短縮され、生産性の向上にもつながった。

○居宅介護支援事業所

当年度から主任介護支援専門員を管理者に任命した。又、新たに佐倉市南部地域包括支援センターが当事業部に加わったことで、要支援者のスムーズな受け入れ体制の構築を急務とした。具体的には、担当予防プラン数を月30件から60件に変更、又生活支援コーディネーターと協働し、圏域のインフォーマル事業を活用するプランニングに特化した。

○配食サービス(佐倉市委託事業)

佐倉市内、上勝田、西御門から表町までがはちす苑の配達地域である。一人暮らしの世帯数が増えたためか、石川の県営住宅や山王などから配達が増え昨年より200件増加した。

【南部地域包括支援センター】

当年度のスローガンは「その人らしい生活を地域で支える」とした。その人らしい生活を事例検討や地域ケア会議を通して考え、地域のネットワークづくりを進めた。

・介護予防教室:目標10回 →実績 10回

・介護予防リーダー交流会:目標2回⇒実績 2回

・介護者教室:目標 4回 ⇒実績 4回

・自立支援型個別ケア会議:目標年 8件→実績 8件

・地域ケア圏域推進会議:目標年 2回→実績2回

・予防プラン件数:目標月120件→実績月90件

当年度の地域ケア圏域推進会議では坂戸地区と八木地区を取り上げ、地区社協や民生委員等と地域の現状を共有した。地域住民に参加していただくことで、地域全体の支え合いの基盤づくりを考える機会となった。

地域包括支援センターの情報発信を強化し、年4回包括だよりを発行し、毎回各地区の民児協で発信。郵便局や公共施設に掲示を依頼しに回った。

啓発活動としては、主に認知症や介護予防に関すること、介護保険や地域の見守り等をテーマに出前講座として開催した。出前講座の回数は、前年度と比較し約2倍に増え、年24回の開催となった。

【南部児童センター】

令和5年4月に、子ども家庭庁が創設され、同時に「子ども基本法」が施行された。「子ども基本法」では、「子どもまんなか社会」を謳われており、南部児童センター及び学童保育所は、当年度のスローガンを「子どもまんなか DOまんなか」とし、こども中心の支援に努めてきた。全年齢対象のクイズラリーやハロウィン、小学生向けのクリスマス会やスポーツ大会は特に盛況であった。乳幼児親子の利用は減少傾向である一方、小学生の利用が急増した。前年度の4,508名から9,563名と倍以上で、愛光が指定管理を受けてから過去最多となった。背景には低学年の子どもたちが友だちと約束して集まっていることがある。10月よりLINE登録によるイベント案内や情報の配信を開始し登録者の増加がみられた。

○数値目標

子育て悩み相談相談件数 目標70件⇒実績105件

【学童保育】

「こどもまんなか DOまんなか」のスローガンに対し、子どもたちの主体性を引き出せるような取り組みをより心掛けた。行事について、大枠は職員が決めるが、内容については子どもたちから希望を取った。物理的にも、子どもを見守る際、まんなかにいる子どもを見守れるように、子どもの動きに合わせた見守りの配置を行った。

常勤会議を月2回に分け行っていたが、7月より1回で集まるように変更している。また、出勤後にオンライン上で顔を合わせ、情報の共有が出来るようになった。

マチコミアプリの有料版の契約したことにより、家族からのお休み連絡や、タイムラインでの学童での様子が発信できるようになり、家族からも一定の評価を得ている。毎月1回発行していた、『学童通信』は3月をもって終了とした。

【南部地域福祉センター】

スローガンを「様々な活動で交流でき、活気ある地域福祉センター」と掲げた。昨年同様、ヨガなど身体を積極的に動かす事業は人気があり、部屋の許容を超える募集があった。「水曜体操会」は特に人気で、毎週30名以上の参加があり、参加者は大広間で体を動かし、活気ある賑わいを見せている。南部文化祭は今年度も3日間の開催とし、出展者数は個人、グループで26、3日間で322名の来館があった。アンケート結果もたいへん好評であった。

2025年6月より、南部地域福祉センターA棟が冷房の故障及び公共施設の再配置計画等により、令和8年度末まで休所になることが社会福祉課職員より発表された。

○数値目標

・入浴券新規利用券作成

・本年度目標50人⇒実績40人

・来館者数 目標50,000人⇒実績41,431人

○ボランティア活動

地域や施設でボランティア活動が再開され、ボランティア活動の相談や斡旋の件数が増えた。

【アシスト】

当年度のスローガンは「その人らしい生活を地域で支える」であった。所属事業部が変わり、事業部内の連携強化を図った。また当年度は通常より職員面談の回数を増やした。相談支援専門員が抱えるケース数が増す一方、対応できる人材の育成は急務である。定例で実施している事例検討会のほか年度末に精神障害に関連する研修を実施した。精神障害に関わる法人内の事業所や市内の事業所にも周知し、多くの参加者を得た。

数値目標

指定特定相談支援(者):目標500件/年⇒実績665件/年

指定障害児相談支援:目標110件/年⇒実績192件/年

障害支援区分認定調査:目標130件/年⇒実績174件/年

提供時モニタリング加算:目標150件/年⇒実績321件/年

集中支援加算:目標 50件/年⇒実績67件/年

共に生きる あなたの想いを次の10年の地域の力に

令和6年度決算報告



法人単位事業活動計算書

Table with 4 columns: 勘定科目, 当年度決算(A), 前年度決算(B), 増減(A)-(B). Rows include 介護保険事業収益, 老人福祉事業収益, etc.

第二号第一様式

法人単位資金収支計算書

Table with 5 columns: 勘定科目, 予算(A), 決算(B), 差異(A)-(B), 備考. Rows include 介護保険事業収入, 老人福祉事業収入, etc.

第一号第一様式

法人単位貸借対照表

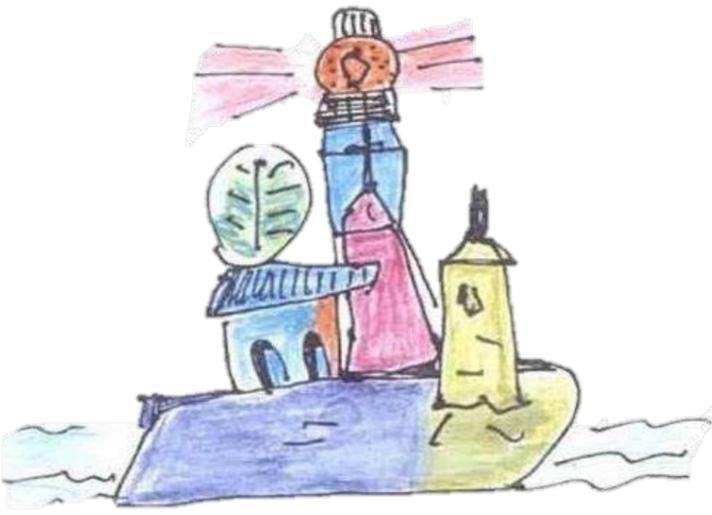
Table with 7 columns: 資産の部, 当年度末, 前年度末, 増減, 負債の部, 当年度末, 前年度末, 増減. Rows include 流動資産, 固定資産, 流動負債, etc.

第三号第一様式

2025(令和7)年度 会員募集

年会費 個人会員 1,000円(1口) 団体会員 10,000円(1口)

会期: 2025年7月1日 ~ 2026年6月30日 新規会員、及びご登録会員の皆様のご入会を心よりお待ちしております。



社会福祉法人 愛光 後援会 愛の灯台基金 《お問い合わせ先》 愛の灯台基金事務局 043-484-6398

感謝のコーナー (2025.4 ~ 2025.7)

法人ならびに各施設に対して、ご芳志をいただいた皆様です。厚く御礼申し上げます。勝手ながら敬称を省略させていただきます。(順不同) 【個人】高梨真年 石毛孢子 吉成庸子 細谷明 星初枝 【団体】千葉県理容生活衛生同業組合 講師会 佐倉市あったか食堂ネットワーク

日誌抄録

(2025.4 ~ 2025.7)

Calendar table showing dates and events from April to July. Includes events like 辞令交付式, 新任職員研修, 5S研修, etc.

編集後記

梅雨らしい雨にほとんど出会うこともなく、季節は静かに夏へと移り変わりました。これからは、いっそう厳しい暑さが続くことが予想されます。どうぞ皆さま、体調には十分ご留意のうえ、お健やかに過ごしてください。

編集委員

宮部和樹(委員長) / 花澤直忠(ルミエール) / 関谷篤史(めいわ) / 関谷景子(リホース) / 岩井聡子(根郷通所センター) / 清水翔斗(はちす苑) / 山崎涼子(はちす苑) / 若崎秀夫(南部包括支援センター) / 高橋飛鳥(ワークショップかぶらぎ) / 齋藤理江(児童センター・学童) / 須藤謙(本部)

2025年(令和7年)8月15日発行 社会福祉法人 愛光 発行人 西原 弘明 編集人 広報委員会 〒285-0807千葉県佐倉市山王2-37-9 TEL.043-484-6391 FAX.043-484-6396 E-MAIL mail@rc-aikoh.or.jp URL https://www.rc-aikoh.or.jp 印刷: ワークショップかぶらぎ

これからもみなさまと共に
愛光創立70周年

秋まつり

日時

10月4日(土)
11:00~15:00

会場

社会福祉法人愛光内
リホープ前駐車場
(メイン会場)
本館ロビー支援センター



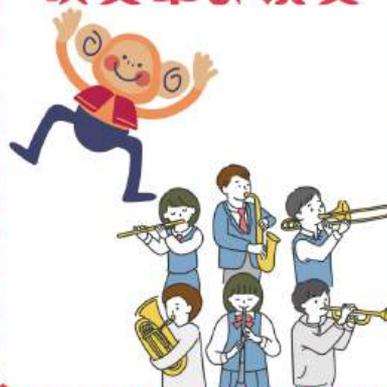
会場までのQRコード



70周年イベント
お楽しみあり



サル芸
吹奏楽部演奏



物井⇄会場間送迎あります(10:00~16:00)
※会場内駐車場には限りがありますので、
出来るだけ交通機関をご利用ください

問い合わせ：よもぎの園 043-486-8521 担当：近藤